

本号のテーマ：「体験すること」

お盆を過ぎると秋風が水田の稲穂の上を気持ちよさそうに撫でていきます。七月に長い雨の季節が続く、稲の生育も心配されましたが、しっかりと実り豊作が期待できそうです。お天道様のお陰と感謝しています。

子ども達は、この夏休みに体験、経験できたことも沢山あることでしょう。

【夏の体験カーリング】

「そだね」「もぐもぐタイム」など、冬季オリンピックによってカーリングが身近に感じるようになってきました。この夏休みに、仲間に誘われ軽井沢でカーリング体験をしました。後ろ足を伸ばしてストーンを「すーっ」と投げる、カッコいいイメージはありました。しかしながら、カーリング専用の靴を履き氷の上に立つだけが精一杯で、投げる時は、しゃがみ込んで投げるあり様でした。見るのとやるのでは大違いです。試合リンクもハーフ体験でしたが、実際のリンクは長く遥か向こうに的となるリンクが見えました。ハードなスポーツです。体力の消耗が激しいので、もぐもぐタイムがあることもうなずけました。

東京オリンピックを機会に、子どもたちが多角的に体験できることを願っています。オリンピック・パラリンピックの選手の皆さんも出前授業に出て、スポーツの楽しさを広めています。また、スポーツを推進される皆さんも色々な体験ができるよう企画されています。

長野冬季オリンピックの時、一校一國運動が行われ、パートナー國の歴史・文化を学び選手団を迎えました。20年たった今も現地の学校と交流を続けている学校もあります。11歳だった女の子が、パートナーとなった國へ実際に行き、そこで感じた気持ちを忘れずに、教師となり子供たちに国際理解教育を推進している先生もいます。

前回の教育委員会だよりでも話されています。「東京オリンピックが、子供たちの心に大きなインパクトを残すことは間違いない。大人（教師）として、これをどう迎えるか今から心の準備をしておきたい」・・・と。

佐久市の子どもたちも各ご家庭で充電して、二学期をスタートさせたことと思います。二学期も安全第一で、実り多い毎日でありますように願っています。

「小さなSOSを見逃さないで」

新学期がスタートして、子どもたちと接する中で「あれっ？」と覚えることはないでしようか。虐待にしても、いじめにしても「おかしいな？」と覚える大人の感性と目が必要です。

「何かありましたか？」と聞いてもたいていの子は、「大丈夫です。」と答えます。テレビの番組で苦しい思いをした子どもが言っていた言葉が心に留まりました。自分がおかしいので上手く行かないと思込んでいる。「大丈夫な顔していませんよ。どうしましたか？」ともう一押しをお願いしますと。

虐待事件も後をたちません。「あれっ？」と覚えた時、誰かに伝えましよう。頑張っているお母さんお父さんを少しでもサポートできればと思っています。

◎佐久市教育委員会の相談窓口

『コスモス相談』（不登校・いじめ・就学等 相談窓口）

直通電話 0267-62-2918

*悩みごとや心配ごとなど、どんなことでもお気軽にご相談ください。

「教育委員会の動きなど」

エストニア共和国とモンゴル国への海外研修（8月1日～8日）の報告会から

佐久市ふるさと創生人材育成事業中学生海外研修の報告会がありました。

7月の壮行会では不安げな様子も見られましたが、9月の報告会では会場に入った瞬間に研修をやり終えた熱気が伝わってきました。さっと立つ姿・礼をする姿を見て美しいと感じました。



研修を終えての感想発表がありました。佐久市の中学生の代表として経験したことを堂々と話す中学生の報告に聞き入ってしまいました。

ほんの一部ですがご紹介します・・・

○日本を出ることやホームステイすることが、とても不安でした。笑顔を忘れないうようにしました。とってもやさしく接してくださいました。別れる時は、涙が出ました。

○日本ではあたりまえの事も、外国では違っていた。もっと外国の事を学びたい。

○この研修に行けて本当に良かったです。行って感じた他国の文化・料理・生活等を他の人にも伝えたいです。

○佐久平に着き家族の顔を見てホッとした気持ちになりました。行かせてくださった家族や支えてくださった周りの方々に感謝します。



「チャレンジャー」この体験が何事にも挑戦していくワンステップとなりますように願っています。

そして、将来への大きなステップとなりますよう期待しております。

10月、11月には、エストニア共和国サク市・モンゴル国スフバートル区の中学生が佐久市を訪問する交流研修があります。ホームステイの予定もあり、市内の小中学校への訪問もあります。思い出多い交流になることでしょう。